

学界消息

史学研究会関係

例会 五月十六日(土)

河地 重造 「北魏王朝の成立とその性格について」

別技 篤彦 「マライシア島嶼圈における民族移動とその交通地理学的考察」

例会 六月六日(土)

藤沢 長治 「中国先秦時代の一問題」
—アンダーソンの甘肅六期について—

岸 俊男 「初期庄園の経営」

京大国史関係

新専攻生歓迎会 五月二日(土) 午後二時

本年度新専攻生十名の歓迎会は、大徳寺本坊に於て行われた。尚同時に大徳寺文書展覧が行われた。

賀茂神社参拝見学 五月十五日(金) 午後二時半

読史会例会 五月廿三日(土) 午後二時於茶

友会館

高取 正男

「飛鳥仏教について」

五来 重

「山岳仏教について」

尚本年度より例会レジメを印刷して居る。

読史会大会 六月七日(日) 午前九時 於文学部第一教室

杉井 六郎

「維新経済史の研究」
—殊に海運業の発達について—

井上 良信

「南北朝時代における土蒙の動向」
—太平記との関連において—

高尾 一彦

「莊園制崩壊期の地方政治」
—備中国新見庄の場合—

山根徳太郎

「石山本願寺跡の発見」

平岡 定海

「中世における地方寺院の性格」
—尾張国妙興寺について—

酒井 忠雄

「摂津型地域における村方不帰依」

平山敏治郎

「徳川時代の村落家族について」

山岡 桂二

「明治思想史に於ける政治と文化の問題」
—木下尚江と魚住折芦について—

藤井 駿

「釜鳴神事と鐃物師の座」

次いで午後五時より進々堂に於いて懇親会を催した。

京大東洋史関係

東洋史談話会新専攻生歓迎会 五月十九日

(火) 那波教授ほか、教官・学生二〇名が午前八時半に新京阪桂駅に集合、桂離宮を見学後、つづいて修学院離宮を見学して五時すぎ散会した。

東洋史研究会 十二卷三号合評会 六月九日

(火) 午後二時より京大人文科学研究所本館会議室にて開催。

人文科学研究所 公開常設人文講座

六月四日 於京大人文科学研究所分館

岩村 忍 「社会人類学の歴史」

六月十一日

牧 康夫 「パーソナリティの構造」

六月十八日

藤岡 喜愛 「社会とパーソナリティ」

六月二十五日

今西 錦司 「社会人類学の課題」

京大西洋史関係

五月廿三・四の両日に亘り、日本西洋史学

会第四回大会が東北大学において開催せられ、研究室からも約二〇名の研究者が参会した。公開講演と研究発表は左の通り行われた。

一、研究発表

高山 一十(広大)「ビンドロス社会意識」
渡辺 金一(一橋大)「欧羅巴古代末期のバトロキニウムについて」

近山 金次(慶大)「アウグスチヌスと祖国の危機」

世良晃志郎(東北大)「権利と權威について」
兼岩 正夫(東教大)「中世ラテン語文献学發達史雑考」

会田 雄次(京大)「メデイチ家の商人独裁とルネサンスの傭兵」

中村 英勝(茶大)「エリザベス時代の議會における言論の自由」

—Wentworth 兄弟について—

小松 芳喬(早大)「第二次インクローウジアの階級性」

酒井 三郎(熊大)「モンテスキューのアウグスツス観」

矢田 俊隆(北大)「ドイツ初期の自由主義

の一考察」

今津 晃(阪大)「印紙条令一揆について」
—アメリカ革命への一理解—
服部 哲郎(九大)「ジェファスン政治思想における幸福原理について」

池田 哲郎(福島大)「アメリカ外交政策の一転機」
—フィリップピン問題をめぐる論争—

中山 治一(名大)「ドイツ帝國主義の基本的方向」

村瀬 興雄(都立大)「一九一八年十二月六日事件について」

一、公開講演

村川堅太郎(東大)「ボリス的社会成立の一前提」

長 寿吉(東洋大)「フランス革命の人間像」

京大地理学関係

中野村調査 四月二十七、八両日

湖東平野綜合研究の一環として、近江蒲生郡中野村の現地調査が、織田教授の指導下に行われた。教室外より京大農学部三橋

教授・滋賀短大宮川助教授らの協力を得、多くの成果を収めることが出来た。

地理学談話会 四月二十九日 於紫明荘

本月の談話会は新専攻生歓迎会に切換え、教官・先輩多数の来会を得て行われた。

日本地理学会大会 五月二、三両日

本年度春季大会は東京大学で開かれたが、教室からは織田・藤岡両教授が参会された。

京大考古学関係

新専攻生歓迎考古学談話会 五月二〇日 午後三時 於楽友会館

新専攻生として秋山進午氏を迎え、又、小林行雄氏の専任講師就任を祝う。最近の発掘の概報として次の如き発表あり。

金 関 恕「滋賀県野洲郡祇王村富山古墳」

宇佐 晋一「京都府相楽郡木津町音如ヶ谷瓦窯址」

樋口 隆康「京都府相楽郡高麗村大塚山古墳」

梅原末治・鎌木義昌・川端真治「岡山県上道郡幡多村金倉山古墳」